

千葉県外来種整理表例

資料-1

| 和名 | 学名 | 分類群 | 生息場所 | 土着生息地(原産地) | 現在の定着場所 | 千葉県での分布状況 | 千葉県での生息状況 | 移入経路 | 千葉県への侵入年代 | 生息環境 生活場所 | 繁殖場所 | 食性 | 生活史 |
|-------------|---------------------------------|----------------------|-------|----------------------------|--------------------|---------------------------------|---|---------------------------------------|-----------------------|---------------|-----------------|----------------------------|---|
| アカゲザル | <i>Macaca mulatta</i> | 哺乳綱霊長目オナガザル科 | 陸域 | インド、中国、東南アジアなど | 千葉県 | 館山市・白浜町・千倉町 | 生息数・分布が増加拡大中。2004年度の調査で、3〜5群、200頭以上が生息と推定。 | 観光施設orペットの放逐・逸出 | 1990年代以前(おそらく太平洋戦争以降) | 森林 | 森林 | 主に植物の実や葉 | メンバーの決まった数10頭〜100頭以上の群れで森林内を遊動する。1歳1子。 |
| カイウサギ | <i>Oryctolagus cuniculus</i> | 哺乳綱兔目ウサギ科 | 陸域 | ヨーロッパアナウサギの家畜種 | 日本各地(主に島嶼) | 館南町浮島 | 不明 | 飼育個体の放逐 | 1980年代 | 森林、草地 | 森林、草地 | 雑食性(植物の葉、枝、樹皮など) | 地面に穴を掘って、4〜6頭ほどの子を年に数回出産。 |
| マスカラット | <i>Ondatra zibethicus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 湖沼・湿地 | 北アメリカ | 千葉県、東京都、埼玉県 | 千葉県行徳野鳥観察舎(市川市)周辺 | 不明 | 毛皮用養殖個体の放逐・逸出 | 太平洋戦争終戦前後ころ | 湖沼・湿地 | 湖沼・湿地 | 主に水生植物 | 4〜8頭ほどの子を年に数回出産。 |
| ドブネズミ | <i>Rattus norvegicus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 陸域 | 中央アジア(推定) | 日本各地 | 全域 | 不明 | まざれこみ | 史前(江戸時代という説もある。) | 下水管、地下街など | 土中(植え込みなど)、建築物内 | 雑食性(動物が多い) | 下水管や地下街など比較的湿った場所を好む。 |
| クマネズミ | <i>Rattus rattus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 陸域 | 東南アジア(推定) | 日本各地 | 全域 | 不明 | まざれこみ | 史前(歴史時代という説もある。) | 人家、ビルなど | 人家・ビル内 | 雑食性(種実類が多い) | ビルや天井裏など比較的乾燥した高所に生活する。木登りが得意。 |
| ハツカネズミ | <i>Mus musculus</i> | 哺乳綱齧歯目ネズミ科 | 陸域 | 不明 | 日本各地 | 全域 | 不明 | まざれこみ | 史前(歴史時代という説もある。) | 人家、農村地域 | 人家内、草地など | 雑食性(種実類が多い) | 家屋、農耕地、草地などに生息する。 |
| アライグマ | <i>Procyon lotor</i> | 哺乳綱食肉目アライグマ科 | 陸域 | 北アメリカ | 日本各地 | 美瑛地域、君津市、印西市など | 生息数・分布が増加拡大中。 | ペットの放逐・逸出 | 1990年代 | 森林、農村地域、住宅地 | 樹洞、人家(屋根裏) | 雑食性(昆虫類、小型の脊椎動物、果実など) | 人家の屋根裏で繁殖することが多い。春に3〜6頭の子を産出。 |
| イヌ | <i>Canis familiaris</i> | 哺乳綱食肉目イヌ科 | 陸域 | 家畜種 | 日本各地 | 県内各地 | 不明 | ペット・狩猟犬の放逐・逸出 | 不明 | 森林、農村地域、住宅地 | 森林、農村地域、住宅地 | 雑食性 | 単独で暮らす場合もあるが、数頭で群れをつくることが多い。 |
| ハクビシン | <i>Paguma larvata</i> | 哺乳綱食肉目ジャコウネコ科 | 陸域 | 中国南東部、台湾、東南アジアなど | 日本各地 | ほぼ全域 | 生息数・分布が増加拡大中。 | 毛皮用養殖個体の放逐・逸出。千葉県には茨城県から分布拡大した可能性が高い。 | 1980年代 | 森林、農村地域、住宅地 | 樹洞、人家(屋根裏) | 雑食性(昆虫類、陸生貝類、小型の脊椎動物、果実など) | 人家の屋根裏で繁殖することが多い。春〜秋に2〜4頭の子を産出。 |
| ネコ | <i>Felis catus</i> | 哺乳綱食肉目ネコ科 | 陸域 | 家畜種 | 日本各地 | 県内各地 | 不明 | ペットの放逐・逸出 | 不明 | 森林、農村地域、住宅地 | 森林、農村地域、住宅地 | 雑食性 | 生ゴミに依存することが多い。小動物を活弁に捕食する。 |
| イノシシ | <i>Sus scrofa</i> | 哺乳綱偶蹄目イノシシ科 | 陸域 | 北アフリカの一部からユーラシア | 日本各地(国内移入) | 房総丘陵を中心とした地域、および総町・成田市 | 生息数・分布が増加拡大中。2001年度の調査で、518個に生息と推定。 | 狩猟目的の放逐 | おそらく1980年代以降 | 森林 | 森林 | 雑食性(植物の根茎や堅果、ミミズなど) | 春〜秋に2〜8頭の子を産出。 |
| キョン | <i>Murrtiacus reevesi</i> | 哺乳綱偶蹄目シカ科 | 陸域 | 中国南東部、台湾 | 千葉県、東京都伊豆大島 | 房総丘陵を中心とした地域 | 生息数・分布が増加拡大中。2001年度の調査で、507個に約400頭が生息していると推定。 | 観光施設からの逸出 | 1960〜1980年代の間 | 森林 | 森林 | 雑食性(木の葉や実、草) | ほとんど単独で行動。1産1子で、特定の産卵期はないよう。 |
| フェレット | <i>Mustela putorius furo</i> | 哺乳綱食肉目イタチ科 | 陸域 | ヨーロッパカナガイタチの家畜種 | なし | 繁殖・定着は未確認 | 1980年代前半に千葉支庁管内で1頭が捕獲されたが、その後は生息情報なし。 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 森林、農村地域 | 森林、農村地域 | 雑食性 | ヨーロッパではウサギを巣穴から追い出するために飼育されてきた。 |
| オグロブレイリードッグ | <i>Oymnys ludovicianus</i> | 哺乳綱齧歯目リス科 | 陸域 | 北アメリカ | なし | 繁殖・定着は未確認 | 2000〜2001年の約1年間、野田市にあるゴルフ場に1頭が生息していた。 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 草地 | 草地 | 雑食性(主に草) | 草地に巣穴を掘り、社会的集団で暮らす。 |
| ワラビー類 | Macropodidae sp. | 哺乳綱有袋目カンガルー科 | 陸域 | オーストラリア | なし | 繁殖・定着は未確認 | 1990年代に、天津小湊町、大多喜町、君津市にて、複数の目撃情報あり。 | ペットの放逐・逸出 | 繁殖・定着は未確認 | 森林 | 森林 | 雑食性 | 原産地では森林に生息する種が多い。 |
| オカダゴンゴシ | <i>Armadillidium vulgare</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、オカダゴンゴシ科 | 陸域 | ヨーロッパ(地中海地域と考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | 全国的に人為の及ぶ場所にごく普通 | 不明 | 不明 | 明治以降 | 人為の及ぶ場所 | 人為の及ぶ場所 | 雑食 | 殆ど同じ形態、春〜秋に産卵、寿命不詳 |
| ワラジムシ | <i>Porcellio scaber</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | 陸域 | ヨーロッパ | 全国的に分布(中部以北に多い) | 全国的に人為の及ぶ場所にごく普通 | 不明 | 不明 | 明治以降 | 人為の及ぶ場所 | 人為の及ぶ場所 | 主に落葉 | 殆ど同じ形態、春〜秋に産卵、寿命不詳 |
| ホソワラジムシ | <i>Porcellionides pruinosus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | 陸域 | ヨーロッパ(地中海地域と考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | 全国的に人為の及ぶ場所 | 不明 | 不明 | 明治以降 | 人為の及ぶ場所 | 人為の及ぶ場所 | 主に落葉 | 殆ど同じ形態、春〜秋に産卵、寿命不詳 |
| オビワラジムシ | <i>Porcellio dilatatus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ワラジムシ科 | 陸域 | ヨーロッパ(地中海地域と考えられる) | 関東地方などに希 | 館山市で報告例有り | 不明 | 不明 | 明治以降 | 人為の及ぶ場所 | 人為の及ぶ場所 | 主に落葉 | 殆ど同じ形態、産卵期、寿命不詳 |
| ナガワラジムシ | <i>Haplophthalmus danicus</i> | 等脚目(ワラジムシ目)、ナガワラジムシ科 | 陸域 | ヨーロッパ(地中海地域と考えられる) | 全国的に分布(関東・北陸以南に多い) | 全国的に公園や二次林など | 不明 | 不明 | 明治以降 | 公園や二次林など | 公園や二次林など | 主に落葉 | 殆ど同じ形態、産卵期、寿命不詳 |
| フロリダマミズヨコエビ | <i>Orangonyx floridanus</i> | ヨコエビ目マミズヨコエビ科 | 淡水域 | 北米 | 東北、関東、中部、関西、四国、九州 | 古利根沼(利根川水系)、千葉市(都川、鹿島川)、栗山川、一宮川 | 観賞魚の水槽にいれる水草に附着して侵入した? | 不明 | 1980年代 | やや富栄養化した河川、湖沼 | 河川では礫底、湖沼では水草帯、 | デトライタス | 詳細不明、年間を通して採集される |
| タテマフジツボ | <i>Balanus amphitrite</i> | 無柄目フジツボ科 | 海域 | 不明(？ハワイ、？フィリピン) | 北海道〜九州 | 千葉県沿岸全域 | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底からバラスト水) | 不明 | 明治以降(1935年に相模沖の記録がある) | 内湾潮間帯〜潮下帯 | 内湾潮間帯〜潮下帯 | 海中懸濁物食 | ほぼ周年産卵がおこなわれる |
| アメリカフジツボ | <i>Balanus eburneus</i> | 無柄目フジツボ科 | 海域 | アメリカ合衆国北部東岸〜南米北岸 | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸 | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底からバラスト水) | 不明 | 明治以降(1950年) | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | 海中懸濁物食 | ほぼ周年産卵がおこなわれる |
| ヨーロッパフジツボ | <i>Balanus improvisus</i> | 無柄目フジツボ科 | 海域 | ヨーロッパ大西洋岸 | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸、銚子 | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底からバラスト水) | 不明 | 明治以降(1952年) | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | 海中懸濁物食 | ほぼ周年産卵がおこなわれる |
| イッカクモゴガニ | <i>Pyromais tuberculata</i> | 十脚目モゴガニ科 | 海域 | 北米太平洋岸のサンフランシスコから南米コロンビアまで | 本州、四国、九州 | 東京湾沿岸 | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底からバラスト水) | 不明 | 明治以降(1970年) | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | 海底堆積有機物食 | ほぼ周年産卵がおこなわれ、夏期で1ヶ月、冬季で3ヶ月で成熟し、1回の産卵後直ちに次のバッチを産卵期は冬期を中心とした11月から5月で、幼生の産卵は3月ごろ。稚ガニは春から夏に成長しその年の秋から繁殖をはじめ |
| チチュウカイミドリガニ | <i>Carcinus aestuarii</i> | 十脚目ガザミ科 | 海域 | 地中海 | 東京湾沿岸域(神奈川県、東京都) | 東京湾沿岸 | 不明だがおそらく船によって運ばれた(船底からバラスト水) | 不明 | 明治以降(1984年) | 内湾潮下帯 | 内湾潮下帯 | おそらく二枚貝やゴカイを主食とする肉食 | |

千葉県外来種整理表

| 和名 | 生態系への影響 | 農林水産業への被害 | 生活被害 | 生命身体への被害 | 考えられる対策 | 文献 | 写真・標本の有無（保管先） | 備考 | 体重 | 頭胴長 | 尾長 |
|-------------|---|-------------------------------|---------------------|--------------------------------|---------------------------------------|---|-----------------------|--|-----------|-----------|---------|
| アカゲザル | ニホンザルとの交雑 | 農作物被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 実態調査・全頭捕獲・食害の技術的防除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 房総のサル調査会編（1999）、萩原・川本（2001）、萩原ほか（2003）、川本ほか（2004） | 剥製標本：千葉県立中央博物館 | | 5～8kg | 47～64cm | 19～30cm |
| カイウサギ | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 実態調査・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 仲真（2002） | なし | | 1.4～2.3kg | 38～50cm | 4～7cm |
| マスカラット | 採食の影響 | 不明（かつてはハスの食害） | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 実態調査・外来種問題の普及啓発 | なし | 剥製標本：千葉県立中央博物館 | | 0.5～1.5kg | 23～32cm | 18～29cm |
| ドブネズミ | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 現在のところ、なし | 必要に応じた捕獲駆除 | なし | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | | 150～500g | 18～26cm | 15～22cm |
| クマネズミ | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 病気の伝播（広東住血線虫などの主要宿主） | 必要に応じた捕獲駆除 | なし | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | | 150～200g | 15～24cm | 15～26cm |
| ハツカネズミ | 採食の影響 | 現在のところ、なし | 食品の食害、様々なものを齧る、糞尿被害 | 現在のところ、なし | 必要に応じた捕獲駆除 | なし | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | | 9～23g | 57～91mm | 42～80mm |
| アライグマ | 採食の影響、中型雑食獣との競合、フクロウ類の繁殖樹洞の占拠 | 農作物被害 | 天井裏の糞尿被害・騒音、飼育ゴイの捕食 | 現在のところ、なし（アライグマ回虫の危険性が指摘されている） | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 落合ほか（2002） | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | 尾に数本の黒い縞模様がある。 | 4～10数kg | 41～60cm | 20～41cm |
| イヌ | 不明 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 噛みつき可能性あり | 必要に応じた捕獲駆除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | なし | 骨格標本：千葉県立中央博物館 | | — | — | — |
| ハクビシン | 採食の影響、中型雑食獣との競合 | 農作物被害 | 天井裏の糞尿被害・騒音 | 現在のところ、なし | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 落合（1998）、落合・浅田（2002） | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | 顔の中央の白線が目立つ。 | 3～5kg | 48～60cm | 38～43cm |
| ネコ | 採食の影響（コアシサシのヒナなど） | 現在のところ、なし | 庭での脱糞 | 現在のところ、なし | 必要に応じた捕獲駆除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | なし | 骨格標本：千葉県立中央博物館 | | 2～6kg | — | — |
| イノシシ | 採食の影響、タカサゴキラマダニの増加 | 農作物・タケノコ被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 浅田ほか（2001）、房総のシカ調査会編（2001、2002） | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | 国内外来種。イノブタを含む。在来個体群は昭和40年代ごろに絶滅した可能性が高い。 | 50～150kg | 120～150cm | 14～23cm |
| キョン | 採食の影響 | 農作物被害 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 実態調査・捕獲駆除・食害の技術的防除・飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 房総のシカ調査会編（2001、2002） | 剥製・骨格標本：千葉県立中央博物館 | 勝浦市にあった観光施設が移入源と考えられる。 | 10kg | 70cm程度 | 7～11cm |
| フェレット | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | なし | なし | 繁殖・定着は未確認 | 0.9～1.1kg | 30～36cm | 13～15cm |
| オグロブレーリードッグ | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし（散歩等で伝播の危険性が指摘されている） | 飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | 東京新聞（2001年5月2日付け特報ちば） | なし | 繁殖・定着は未確認 | 0.9～1.5kg | 28～35cm | 8～11cm |
| ワラビー類 | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 現在のところ、なし | 飼育管理の強化・外来種問題の普及啓発 | なし | なし | 繁殖・定着は未確認 | — | — | — |
| オカダングムシ | | 園芸作物を食害することがある | 人により不快害虫 | | | 布村（2001）等 | 千葉県立中央博物館・富山市科学文化センター | | | | |
| ワラジムシ | | | 人により不快害虫 | | | 布村（2001）等 | 千葉県立中央博物館・富山市科学文化センター | | | | |
| ホソワラジムシ | | | 人により不快害虫 | | | | 千葉県立中央博物館・富山市科学文化センター | | | | |
| オビワラジムシ | | | | | | | 富山市科学文化センター | | | | |
| ナガラジムシ | | | | | | | 千葉県立中央博物館・富山市科学文化センター | | | | |
| フロリダマミズヨコエビ | 汚れた水や夏期の高水温に強く、河川中の有機物を分解するフロリダマミズヨコエビは、同様の生活要求をもつ他の底生動物に大きな脅威を与えることが考えられ、また水生植物を強力に分解し増生を一旦させてしまう可能性もある。 | 現状では不明 | | 現状では不明 | 現状では不明 | Morino et al. (2004), Toft et al. (2002) | 千葉県立中央博物館、茨城大学理学部 | | | | |
| タテジマフジツボ | 船底汚濁生物 | 特になし | | 特になし | 船底についてはすでに対策がとられている。 | 岩崎他（2004） | | | | | |
| アメリカフジツボ | ? | 特になし | | 特になし | バラスト水の殺菌 | 朝倉（1992）、岩崎他（2004） | | | | | |
| ヨーロッパフジツボ | ? | 特になし | | 特になし | バラスト水の殺菌 | 朝倉（1992）、岩崎他（2004） | | | | | |
| イッカクモガニ | 在来の小型カニ類の生態に影響を与える可能性がある | 特になし | | 特になし | バラスト水の殺菌 | 朝倉（1992）、岩崎他（2004）、風呂田・木下（2004） | | | | | |
| チチュウカイミドリガニ | 在来のカニ類の生態に影響を与える可能性がある | 在来の水産有用ワタリガニ類の生態に影響を与える可能性がある | | 特になし | バラスト水の殺菌 | 朝倉（1992）、岩崎他（2004）、風呂田・木下（2004） | | | | | |